

コロナ直撃も9期連続黒字 2年度決算、剰余金1.1億円

当組合は6月30日、通常総代会を塩釜総合支所で開催し、令和2年度決算や3年度事業計画など全議案を原案通り可決、承認した。写真は、2年度は当期剰余金1億1365万円を計上。新型コロナウイルス感染症による需要減退が直撃し、販売事業が低迷したが9期連続の黒字を確保した。

組合総代会

事業損失は259万円、経常利益は1億1447万円。自己資本比率は16・65%と前年度に比べて1・69%上昇した。

販売事業の受託販売取



扱高は247億123万円（前年度比15%減）。コロナ禍の需要減退などで主力品目の単価が大きく落ち込み、鮮魚類が114億1904万円（同17%減）、海藻類81億6451万円（同16%減）、貝類41億9816万円（同12%減）といずれも減少した。

品目別では、乾のりの平均単価はコンビニを含めた業務用不振が顕著で1枚当たり3・3円安の10・0円。ギンザケは21%安のキロ478円。カキの販売金額は27%減となった。ホヤは貝毒の影響もあり水揚量が8割にとどまった。

一方、ホタテは国の特定水産物供給平準化事業を活用して水揚げ促進に努めた結果、取扱量が1・9倍にアップ。ワカメは近年の高値に及ばないものの大きく下落することなく生産を終えた。3年度は共取品の消費拡大と高付加価値化に取り組むとともに、種苗の安定確保や病害害対策に向け研究機関との連携を強める。冷凍加工品の販売事業では輸出を重点項目に入れた。感染症対策として会議などのリモート対応の検討も進める。

この日の総代会では、共同・区画漁業権の適切な管理を通じて持続的な

成功させよう 海づくり大会

石巻市を主会場として10月2、3の両日に本県で初開催される「第40回全国豊かな海づくり大会～食材王国みやぎ大会」。当組合もプレイベントに参加し、大会の機運醸成に一役買っています。

漁業生産を目指す「漁業生産力の発展に関する計画」の制定も承認した。

資源減少が続くイサダ（ツノナシオキアミ）やアワビ、秋サケなどの生産力回復・発展に努める。

（2面に令和2年度の事業成績を掲載）

機運醸成に一役

県庁で特産品PR

海づくり大会の100日前イベントが6月24、25の両日、県庁であった。海洋プラスチックごみに関する講演や県警音楽隊のミニコンサートが催され、当組合は県内特産品の販売を通して全県的な盛り上げを図った。本所は、志津川支所女性部が手掛ける缶詰シリ



ーズ「魚市場キッチン」や県内加工会社の人気商

品を格安で提供。塩釜市第一支所は塩蔵ワカメ商品、七ヶ浜支所はのりチップスなどをPRした。海洋プラスチック問題をテーマにしたシンポジウムでは、東京大気海洋研究所の道田豊教授（国際連携研究センター長）が基調講演。海に流出したプラスチックが紫外線や波の作用で砕けてできる直径5μm以下のマイクロプラスチックが、生態系や人体などに悪影響を及ぼす危険性を指摘した。プラスチック製レジ袋が大事」と呼び掛けた。

豊かな森、豊かな海に

雄勝で植樹

当組合は6月22日、石巻市雄勝町雄勝字奥壺地内で植樹に汗を流した。倒木などで荒れた山の斜面にマツの苗木250本を植え、森と海の絆をあらためて胸に刻んだ。海づくり大会や国連のSDGs（持続可能な開発目標）に呼応した取り組みで、公益社団法人宮城県緑化推進委員会が主催。石巻地区森林組合の

メンバーを含め約70人が丁寧に穴を掘り、肥料も加えながら県内で育成された松食い虫の被害に強い「抵抗性アカマツ」の苗木を植え込んだ。植樹した場所は松枯れや風倒木が目立つ約千平方メートルの荒廃山地。雄勝湾南岸に位置する。ヤマザクラの記念植樹もあり、式のあいさつで緑化推進委員会の森塚理恵理事長は「森と海の間に密接な関係が築かれている。漁業と林業団体の協働の輪が広がれば」と期待。

当組合雄勝町雄勝支所の末永陽市運営委員長は「全国に自慢の海産物を届けられるのは、海に多大な恩恵を与えてくれる森があつてこそ。林業関係者と協力し合い、震災の傷跡が今も残る雄勝の森と海の健全化を図っていききたい」と誓った。

功への決意を込めてあいさつ。日ごろ海浜清掃に取り組み一般社団法人石巻海さくらの高橋正祥代表、宮城海さくら隊の長が活動内容を紹介した後、公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構（東京都）の桑知文事務理事が「環境美化宣言」をした。漂着ごみの8割は陸から川を通じて流れ出した生活ごみという。当組合石巻湾支所は渡波長浜海岸、石巻地区支所は佐須浜、石巻市東部支所は牧浜で清掃活動を展開。地域住民を含め総勢約150人がトンガなどを使ってごみを拾い集めた。3つの浜のごみの量を合わせると燃えるごみは150袋、ペットボトル30袋、缶・ビン類25袋になった。清掃活動に取り組む参加者たち（渡波長浜海岸）

寺沢組合長に聞く

昨年度決算や事業の方向性、処理水の海洋放出問題、海づくり大会の意気込みなどを寺沢春彦代表理事組合長に聞いた。

—9期連続の黒字を達成した。

寺沢組合長 環境変化による漁獲不振や貝毒



この1年「組合員に感謝」 コロナ後見据え事業展開

抱えている課題の解決に努めたい。

—具体的には何をすべきなのか。

寺沢組合長 昨年度はホタテの平準化事業が成果を上げ、ホヤ・アカガイは貝毒の監視海域が細分

—コロナの影響

らった1年だった。浜の声をしっかりと取り入れ、「わかりやすい漁協」を構築することで理事会制度移行の成果を示していきたい。

寺沢組合長 東日本大震災から10年の節目。全国の皆さんに支援への感謝を伝えたい。復興に向けて精いっぱい歩んできた宮城の漁業者の姿も見てもらえれば。運営に全面的に協力していく。



記念植樹を行う当組合員ら



清掃活動に取り組む参加者たち（渡波長浜海岸）

協同組合論

北海学園大学経済学部教授

濱田 武士

25



政府は平成30年に「水産政策の改革」を押し進めることとして令和2年12月に新漁業法を施行させました。皆さん、そのことについてあまり意識されていないかもしれませんが、新漁業法施行で国家と漁業との関わりが大きく変わりました。その象徴は「目的と基準が明確になった資源管理制度」が柱になったこと

販売の自由、どう捉える？

これまでこのやり方は資源管理対策として十分だったと政府が判断してしまいました。それゆえ、これから資源管理では、これまでのやり方を続けることが、漁業者には漁獲量の報告を義務づける、資源量推定を科学機関である水研機構が行い、資源量をMSY（資源量を維持できる最

大漁獲量）水準に回復させるためにTAC等による数量管理を強化して、行政が漁業を統治するということになったのです。平たく言えば、行政が漁獲量の管理を強めて自然界にいる魚の資源量を積極的にコントロールしようという制度になったのです。こうした新たな制度のなかで皆さんに直接関係してくるところは漁獲量の報告義務です。養殖業でも収穫量の報告義務（資源量を維持できる最

いずれにしても、漁協は新たに行政代行業務の負担を背負わされるのだから、支所と組合員との間でしっかりとした取り決めを交わす必要があります。私の住む北海道では、組合員が無届けで漁協の販売事業以外の販路に流すのは「横流し」あるいは「密漁行為」と呼ばれていま

「差別化を図らないとモノは売れない。いざ生産は全てみやぎサーモンに切り替えるのが理想」と当組合本所経済事業部の岩崎幸雄部長。「コロナが収束すれば対面販売も再開できる。みやぎサーモンの拡販に一層力を入れていきたい」と意気込む。



④今年度の事業計画などを決めた総会 ⑤永年勤続者表彰を受けた唐桑の鈴木さん(左)と志津川の小山さん



画の決議や永年勤続者表彰なども行った。来賓を含む

内海会長を再任

コロナ禍でも「強い意志を」

女性連通常総会

当組合女性部連絡協議会は5月20日、今年度の通常総会を石巻グランド

め約60人が出席。新型コロナウイルスの感染防止を図るため、会員の出席は役員ら一部にとどめた。

事業計画は漁協運動の発展と男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの推進を基本方針に掲げた。「私たちにできることからはじめよう W

新しい女性部活動」を合言葉に、水産物の販売促進や料理教室の開催など、食育推進に重点的に取り組んでいくことを確認した。

会長を除く役員は次の通り（敬称略、かつこ内は所属支所）。
▽副会長 三浦弘子（歌津、吉野八重子（石巻地区）▽監査委員 後藤恵子（志津川・戸倉、武田寿子（石巻市東部）▽委員 久保田妙子（志津川）、阿部伸子（網地島、佐藤順子（七ヶ浜、木村光子（巨理）

秋サケ不漁で寄付 ふ化団体に500万円



渥美会長理事(左)に寄付金の目録を手渡す大友会長

宮城県定置漁業協会

秋サケの記録的な不漁で厳しい状況にある県内ふ化団体を支援しようとして、宮城県定置漁業協会は5月19日、宮城県さけます増殖協会に500万円を寄付した。定置網漁業者が各水系の増殖協会に納める協力金（秋サケ水揚額の7%）がふ化・放流事業の原資となるが、令和元年度から続く極度の不漁に

高鮮度で需要増 巣ごもり追い風



活発な水揚げが続いた養殖ギンザケ

要」と感謝。定置漁業協会の大友久義会長（当組合鳴瀬支所）は「水揚げが激減して定置網漁業者も苦しいが、放流のおかげで漁ができています。有効に活用

してほしい」と語った。県内の令和2年度秋サケ来遊数は18万8千尾（平成30年度比81%減）で、稚魚放流数は2509万尾（同53%減）にとどまった。

みやぎサーモン

（GI）保護制度登録の活しめブランド「みやぎサーモン」の取引も相次いだ。漁場環境に恵まれた今季は目立ったへい死もなく、安定的な水揚げが続いた。越年在庫の払底も伝わり、シーズンを通して好相場を形成した。

当該事業年度および直前3事業年度の事業成績ならびに財産および損益の状況

【1面参照】（令和2年度「業務報告書」から。単位：千円）

区 分	項 目	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度(当期)
財 務	事業利益	323,194	△7,698	85,257	△2,594
	経常利益	449,019	134,845	225,974	114,474
	当期剰余金	651,900	169,991	252,318	113,648
	総 資 産	103,574,611	98,478,192	93,653,142	80,950,970
	純 資 産	12,443,720	5,808,026	5,931,361	5,893,327
	単体自己資本比率	32.48%	14.31%	14.96%	16.65%
信用事業	貯 金	86,308,772	87,946,398	83,404,208	70,667,702
	預 け 金	77,530,796	73,773,666	69,239,507	57,467,216
	貸 出 金	14,720,495	12,720,483	12,567,182	12,082,172
共済事業	長期共済保有高	64,750,420	60,704,297	57,346,400	53,335,300
	短期共済契約高	49,820,690	48,310,810	49,406,160	45,800,000
購買事業	石油類供給高	2,845,406	3,525,895	2,868,066	2,555,628
	資材類等供給高	5,185,067	4,343,394	4,317,263	4,203,221
販売事業	受託販売取扱高	34,279,895	29,781,257	29,129,109	24,701,227
	買取販売高	1,987,269	955,743	1,252,710	1,343,397

近年の県内生産量は1万4〜5千トン前後で推移。このうちの2〜3割がみやぎサーモンとなる。ブランド誕生から4年がたち、認知度が上がってきた。鮮度の高さが評判を呼び、刺身など生食に特化した商材として全国から引き合いが年々強まっている。

「差別化を図らないとモノは売れない。いざ生産は全てみやぎサーモンに切り替えるのが理想」と当組合本所経済事業部の岩崎幸雄部長。「コロナが収束すれば対面販売も再開できる。みやぎサーモンの拡販に一層力を入れていきたい」と意気込む。

組合からのお知らせ

信用共済部

今年春から、ジャックス保証型ローンの仮審査申し込みがウェブ（Web）でできるようになりました。待ち時間0分で、スマートフォンやパソコン上からいつでも簡単に手続き可能です。最大1・0%の金利優遇も受けられます。組合員のニーズにスピーディーかつお得に応えます。

利用できるのはマイカーローン、教育ローン、フリーローン。当組合ホームページトップ画面の「ローンWeb申し込み」ボタンをクリックし画面指示に従って手続きするだけです。仮審査結果は後日、電話などで通知。金融センターに来所して必要書類を提出すると本申し込み完了です。

Webでローン仮審査 来所不要、金利優遇も

イン4・5%ですが、Webで仮審査の申し込みをすると0・2%引き下げられます。金利優遇条件はほかに水揚げ販売代金の振込口座指定や、定期積金の契約などがあり、全5項目を満たせば貸出金利はマイカーローン1・8%、教育ローン1・6%、フリーローン3・5%とさらにお得です。

現在マイカーローンや教育ローンを組んでいる人は上手に借り換えれば返済負担を減らせます。

リフォームローン、多目的ローン、無担保住宅借換ローンの申し込みはWebで実施していないため、直接金融センターに足をお運びください。

詳しくは最寄りの支所または金融センターまでお問い合わせください。

ジャックス保証型ローン

マイカーローン
フリーローン
多目的ローン

漁協は、こんなローンも取扱ってます！

対象期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

マイカーローン 金利 1.8%～2.8% 返済方法 借入額・車種・保証料等により異なる。 返済期間 10年～15年以内 借入上限 10万～1,500万円以内	教育ローン 金利 1.6%～2.6% 返済方法 学校・学費・教材費・生活費・入学金等に限り、貸付可能。仕立て直し、教育ローンへの借換も可能。 返済期間 10年～15年以内 借入上限 10万～1,500万円以内	フリーローン 金利 3.5%～4.5% 返済方法 借入額・用途・保証料等により異なる。 返済期間 10年～15年以内 借入上限 10万～1,500万円以内
リフォームローン 金利 2.4%～3.9% 返済方法 住宅の増改築工事、住宅設備機器の購入、リフォーム工事費、外構工事費等。 返済期間 10年～15年以内 借入上限 10万～1,500万円以内	多目的ローン 金利 2.8%～3.6% 返済方法 借入用途は借入額・返済方法・返済期間により異なる。 返済期間 10年～15年以内 借入上限 10万～1,500万円以内	無担保住宅借換ローン 金利 2.55%～4.0% 返済方法 住宅金融支援機構、公的および民間住宅ローンの借り換え等。 返済期間 10年～15年以内 借入上限 10万～1,500万円以内

浜の 娟さん

孫の莉央さんと。保冷库の絵は屋号の弁天丸にちなみ震災ボランティアが描いてくれた



表浜支所 安藤春造さん

後継者がいなくて廃業を余儀なくされる漁家も少なくない中、娟をどうして家業を守っているところもある。それも3代続けてというから珍しい。

安藤家の1代目のお娟さんはすぐ近くの家から娟入りした。以降家族でカキ養殖に励み、昨年91歳で大往生した。

2代目お娟さんの春造さんは牡鹿半島の先の網地島出身。縁あって安藤家の三人娘の一人祥子さんのお娟さんにとの話が持ち上がった。三男の春造さんは兄たち同様北洋トラロールや巻き網などの大型船に乗っていた。6月の休漁期間にお見合いをし、デートをすることになった。石巻のボウリング場に出かけたとき、経験したことのない大きな地震に襲われた。6・12宮城県沖地震だ。祥子さんは倒れてきた自動販売機の下敷きになり、足を複雑骨折。3カ月もの入院が必要となった。

毎日病院に見舞いに行った春造さん。しかし8月に入り、また船に乗らなくてはならなくなっただけが人を放って行ってしまうはこの話もどうなるかな、と後ろ髪を引かれた。3代目お娟さんとして浜に来た。

千春さんは幼い頃からおじいさんに「おまえが娟をとって家を継ぐんだぞ」と言われて育った。何が何でもと負っていたわけではないが、密かに「ゆくゆくは」と思っていたと笑う。「勝也さんは最初は抵抗あったみたいだけど、諦めたみたい」だそう。

それから6年。現在祥子さんの母を含め4世代6人で暮らしている。海の仕事は春造さんが教えていた。カキ養殖のほかに、勝也さんと2人で船に乗ってコウナゴやアナゴも獲っている。来た当初は娟仕事をしながらほかのことに話してくれた。



この この

ギンザケの選別作業。いい魚に育て上げて出荷したときの喜びはひとしお

雄勝町雄勝湾支所 三浦大輝さん(26)

大阪出身の三浦さんは、大学卒業後入社した会社を間もなく辞めてしまった。「そもそも自分がやりたいことを真剣に考えていなかった。なんとなく就職活動をして採用になったところに入っただけで、何かこれじゃないかと思ってしまった」。

その年の7月、漁師の仕事を経験する漁師学校があるということで、参加してみることに。それが雄勝でのギンザケ養殖体験であり、その講師が現在の親方佐藤一さんだった。佐藤さんはホタテ、ホヤ、カキ、ギンザケ、秋サケ定置、雄勝でできる漁業のほぼ全てを営んでいる。たった1泊2日の体験だったが、漁師の仕事、その魅力を感じることができた。

「やりたいこと」を見つけ「浜の信頼を得るまでに」

学生時代から第1次産業に興味があり、魚をさばいたり食べたりすることと好きだったため、漁業の道を模索し始めた。あちこちの漁業就業説明会などに出かけたけれど、何か決め手に欠ける。そんなときに見つけたのが、石巻のフィッシングマン・ジャパンのサイト。ほかの漁師募集とは違った発信の方法に引かれ、連絡をとってみた。

その年の7月、漁師の仕事を経験する漁師学校があるということで、参加してみることに。それが雄勝でのギンザケ養殖体験であり、その講師が現在の親方佐藤一さんだった。佐藤さんはホタテ、ホヤ、カキ、ギンザケ、秋サケ定置、雄勝でできる漁業のほぼ全てを営んでいる。たった1泊2日の体験だったが、漁師の仕事、その魅力を感じることができた。

「一さんのところなら養殖種の多くを学べるし、安定的な経営をしていることも魅力だった。いつか独立したいという自分の気持ちも理解してくれた」と三浦さん。空いていた災害公営住宅に入居でき、それまで一度も来たことがなかった雄勝での生活が始まった。ホヤなど、食べたこともなかった。

それから4年。およその仕事は覚え、昨年9月には正組合員の資格も取得。10月から12月は、秋サケに始まりギンザケの稚魚やホタテ稚魚の投入などが重なり、目が回るほど忙しい。体力仕事は覚悟のうえだったが、体を使うのは好き。何を隠そう三浦さんの趣味は筋トレで、たいそうな筋トレ器具セットとともにやって来たのだ。

「もともとほかの土地から来た新規就業希望者を受け入れる体制はなかった」と言うのは阿部貴之支所長。「どうせ続かないのでは」という厳しい目も少なくはなかった。「ただ三浦君は、自分から積極的に声をかけ、」

「諦めて」やって来た3代目娟の勝也さんも、今は海の仕事が「楽しい」と言っているとか。

「娟というのは、家に帰っても何かと気を遣う。今の勝也さんの気持ちは、私が若いときのような感じじゃないかな。娟の立場もわかる春造さんは頼れる存在だ。千春さんと勝也さんの一粒種は9歳の莉央さん。なぜかわからないけど、孫も女の子だけじゃないんだわ。はっはっは」。

息子がいなければ娟をとって家を守る。ある意味持続的な暮らしを、ごく自然に、誰も無理せず選んでいる。家族でオカ仕事をしながらほかのことに話してくれた。

荒波にもまれ身のしまったギンザケ

網地島は牡鹿半島鮎川と網地、2つの浜がある。沖約4キロにある島。長渡



網地島支所 組合員数162人(正58人、准104人)。職員は4人。販売取扱高は令和2年度で約2億7000万円。その約95%を養殖ギンザケが占める。アワビや、天然のフノリ、ヒジキなどの採集草漁業も行われ、ほかに共同経営の定置などもある。

速い外洋で育てている。大きな施設はつくれず作業にも困難があるが、潮流にもまれているため身がしまっているため身がしまっているという評判。阿部教郎運営委員長もギンザケ養殖を営んでいる。海が荒く海藻などが絡みつくので、いけすの網をこまめに交換し潮通しをよくするよう、また過密にならないよう気をつけているという。ギンザケを営む4経営体いずれも環境に配慮した養殖を徹底し、2つはこの5月にMEL認証も取得した。



阿部教郎運営委員長

木村貴秀支所長

いると阿部運営委員長は言う。原因は磯焼け。木村貴秀支所長も、震災前から深刻だったと話す。藻場回復のためにウニの駆除を行うほか、天然ワカメを刈らず胞子を出させる取り組みなども続けている。昨年からはアラメを試験的に種付けし、藻場に定着させる予定で中間育成している。この試みではブルーカーボン事業に手を上げていて、採択されれば施設を設置したいと考えている。



ギンザケの選別作業

後継者問題もあるが、現在ギンザケの4経営体とも後継ぎが育っている。県外から来て海の仕事を手伝い、独立した人もいるし、大きな船に乗っている。後継者問題もあるが、現在ギンザケの4経営体とも後継ぎが育っている。県外から来て海の仕事を手伝い、独立した人もいるし、大きな船に乗っている。後継者問題もあるが、現在ギンザケの4経営体とも後継ぎが育っている。県外から来て海の仕事を手伝い、独立した人もいるし、大きな船に乗っている。

女性部は震災後、被災した移動販売業者の代わりに、日用品や食料品の注文を島民から取って定期船で運んでもらい、島の生活を支えてきた。食料品店が数軒復活した現在も、そこで売っていないもの、島で採れない野菜や果物、乳製品などを中心に注文を取って各家まで配達。高齢者宅の見守りにもつなげている。悲願は長渡港の整備。もういっぺんが入る船を係留しておけないのだ。常に陸揚げし、低気圧が来れば鮎川港に避難させてきたが、行ったり来たりに疲れ果て、歳のいっ

ホシガレイ10万尾放流 安定的漁獲へ中間育成 県支援受けアワビ稚貝も

2万2500尾、志津川支所へ倉出張所が1万8千尾、七ヶ浜支所が1万3500尾受け入れた。組合員と職員らが給餌や水温管理などを行い、放流サイズは80mmまで育成。昨季相次いだ原因不明の死滅もほとんど見られず、7月までに順次、放流を終えた。県内ではほかに牡鹿漁協が1万800尾、水産振興協会が1万2700尾の稚魚を引き受けた。放流後、2〜3年で漁獲できる30cmほどに成長する。

また、アワビ資源の早期回復にも努めている。県内の年間漁獲量は60tほどで、東日本大震災前の4割程度。今季は当組合18支所と牡鹿漁協が計約100万個の稚貝を受け入れた。放流は8月までに完了する計画。

網地島 支所を訪ねて 塩釜市浦戸東部



内海光雄副運営委員長



内海晃文支所長

塩釜市浦戸東部支所 組合員数39人(正18人、准21人)。職員は2人。販売取扱高の8割ほどがカキ養殖で、種ガキや漁船漁業も盛ん。令和2年度はコロナ禍の影響を受け、カキの水揚げは前年の6割ほどに減少。魚価も安く、全体で約3232万円と落ち込んだ。



園地帯が広がる。塩釜市で田んぼがあるのは、神社の祭田を除けばここだけという。朴島には、菜の花(仙台白菜または松島白菜という)畑が広がり、種を採っている。歴史も個性もある魅力的な島だ。震災前はノリとカキが漁業の要だった。が、ノリ養殖をしていた人たちは、震災時60代後半から70代だったため、再建を断念した。カキは6月末に延縄のいかだを投入して、10月頭にはむき始める。手間を惜しまず沖だしをして育てるため、「湾内のカキにしては身入りがよく、身がしまっている」と、内海光雄副運営委員長も内海晃文支所長も自信をもつ。

ふつくら甘いカキにファンも多く



地域おこし協力隊を経て新規着業した青野友樹さん

漁船漁業も、6隻が操業し、カレイやヒラメ、タラ、シラウオなどを獲っている。ハモかごやタコかご、その他ワカメ養殖やギバサ(アカモク)の刈り取りも行っている。ほかに七ヶ浜の水産技術総合センターからアワビの稚貝を購入して毎年放流しているが、漁獲サ

イズまで成長しているものが少ないのが現状。ここ数年タコが豊漁のため、タコに食べられていないのではいかと推測されるが、稚貝はそこそこ見えているので、数年後に期待したいという。「規模が小さいので、組合員と支所の距離が近い」と内海支所長。ちょっとした情報交換や相談など、組合員はちよくちよく支所に顔を出すという。課題は他に違えず組合員の高齢化と、それによる減少。現在、30代の若者2人を除けば、正組合員では最年少で50代後半。以前東松島市と塩釜市が合同で漁師



中間育成後のホシガレイを海に放つ地元小学生(7月2日、寄磯前網支所前岸壁)

事業は4年目。水産研究所・教育機構水産技術研究所宮古庁舎(岩手県宮古市)から5月中旬、体長60mm前後の稚魚を唐桑支所と寄磯前網支所が各2万2500尾、志津川支所へ倉出張所が1万8千尾、七ヶ浜支所が1万3500尾受け入れた。組合員と職員らが給餌や水温管理などを行い、放流サイズは80mmまで育成。昨季相次いだ原因不明の死滅もほとんど見られず、7月までに順次、放流を終えた。県内ではほかに牡鹿漁協が1万800尾、水産振興協会が1万2700尾の稚魚を引き受けた。放流後、2〜3年で漁獲できる30cmほどに成長する。